



女性消防分団員
ゆきこ
水野 幸子 さん

Profile



消防団国津分団に所属している。多くの人に救命講習を伝えたいと、ハートの形をした小さなクッションなど簡単な道具とアニメ動画を使って、短時間で子どもでも分かりやすく学べる救命講習「PUSH」のインストラクターの資格をもつ。

ハートでレスキュー！

医者じゃない私も命を救うことができるんだ！消防団の活動で胸骨圧迫やAEDの使い方を学び、すごく興味がわいてきて。もっと深く知りたくなり、今では医療従事者などが受講する専門的な講座にも自ら足を運んでいます。

実は心臓突然死によって年間約7.9万人の人が亡くなっていて、交通事故で亡くなる人のなんと20倍以上。いつでもどこで誰が心臓突然死になってもおかしくありません。突然、心臓が止まったとき、命を救うことができるのは、その場にいる人なんですよ。胸骨圧迫とAEDの使い方は、難しいことじゃなくて、講習を受ければ誰でもできること。だからこそ、たくさんの人に救命講習を受けてもらいたいと思っています。

救命講習会の参加者に受講した理由を聞くと「自分の子どもに何かあった

ときのため」「子どもが**けが**になったときに何もできなくて」など子どもを守りたいという保護者の声が多くて。私も子どもを持つ親だからその気持ちがすごく分かるので、救命講習をもっと広めない！もっとたくさんの人に知ってもらわないと！そんな気持ちが強くなりました。

「PUSH」という短時間で楽しく学べる救命講習に出会い、これだ！って思いました。すぐにインストラクターの資格を取得。3カ月後には、市内で親子を集めて講習会を開いていました。

今後は、小中学生や家族向けなど、ターゲットに合わせた内容の救命講習をしたいと考えています。いざという時、一歩踏み出せる**勇氣**(ハート)を持って、倒れた人をレスキューする、そんな行動に移ることができる人を1人でも増やしていきたいな。

楽しい！楽しい！楽しい！

プロになれると決まった時、嬉しさよりも「出られる大会が増える！」というワクワク感の方が強かったです。僕にとって、プロになることは次へのスタート地点でもあるんですよ。

スケートボードを始めたのは小学3年生のとき。滑るのも技を決めるのも何もかもが楽しくて、今も毎日のように夜まで練習しています。スケボーの魅力は、技が決まれば**敵味方**関係なく皆で盛り上げられるところ。自分のできない技をライバルが決めていても悔しさはなくて、互いに称え合ったりアドバイスし合ったり。ライバルだけど、その前に友達なんですよ。全国に年齢関係なくたくさん友達がいる。

楽しいことはとことんやり続けるタイプ。でも、小学4年生の時に一度だけスケボーが楽しくなくなったことがあったんです。全然技が決まらなくて、

ボードにも触らなくなりました。結局、うずうずしてきて練習を再開して、それ以降嫌になったことはないんですけどね。スケボーからは離れられないんだと思います。

夢はスケボーで有名になること。「ストリート」という競技は街中でも楽しめるのが魅力ですが、「危ない」「迷惑だ」という批判的な意見もあるんです。ちゃんと安全な場所でやっているのに、スケボーの楽しさを知らない人に批判されたくない。だから世界的に有名になって、スケボーの楽しさをたくさんの人に伝えていきたいです。スケボーを楽しむ人が増えて、批判する人がいなくなったら最高ですよ。

僕が楽しく滑っていれば、周りの人にも「楽しい」が伝わると思うんです。「楽しい」の輪が広がっていくように、これからもスケボーを楽しみます！



名張市初のプロスケートボーダー
瀧永 遥句 さん

Profile

名張初のプロ資格を獲得した**桔梗**が丘中学校3年生の14歳。昨年10月開催の「AJSA全日本アマチュア選手権大会」で3位入賞を果たす。小学3年生からスケートボードを始め、現在は街の中を模したコースで技を競う「ストリート」で世界を目指している。



新春特別企画 2024
ナバリストの
Special Interview

夢

名張に関わる人は皆「ナバリスト」。「ナバリスト」が輝けば、まちが元気に。「ナバリスト」の活躍が、まちの魅力に。さあ、令和6年の始まりです！

ロボットしか勝たん！

「高専生の甲子園」ともいわれる全国大会出場が決まったときは、喜びよりも驚きが先行しました。まさか出られると思っていなかったの、手に持った学校名のプラカードを思わず二度見。控室に戻ってやっと実感がわいてきて、泣きながら喜びを噛みしめました。

ロボット製作の魅力は、担当分野の違う人たちで1つのロボットを作り上げていくワクワク感と、完成したときの達成感。もちろんうまくいかないことも日常茶飯事で、今回のロボットも、実は製作開始2カ月で一度白紙に戻ったんです。チームで話し合いながら、試行錯誤して完成させました。

学校生活は授業とロボット製作しかしてなかった気がします。いつも頭の片隅ではロボットのことを考えていたし、大会前の追い込みの時には毎日夜遅くまで部室で活動していました。

ロボットには、それだけ夢中になれる魅力があるんです。

僕たちは先輩からの引継ぎが少なく苦勞したので、後輩には僕たちの持つ知識や経験をしっかり残していこうとしています。先輩後輩の間に壁があるとスムーズに知識を引き継げないと思うので、フラットな関係で気軽に相談できるような環境づくりをしてきました。先輩後輩関係なく仲が良いところは、ロボット技術部の強みです。

ロボット技術部の夢は全国大会でロボコン大賞を獲得することですが、文化祭で子どもたちにロボットの操縦体験をしてもらった時にすごく楽しんでもらったので、後輩には地域のお祭りなどにもどんどん参加して欲しいですね。僕たちはこの春で卒業ですが、部がもっと盛り上がっていくようにこれからも関わっていきます。

名張にとりつかれた男

初めて名張を訪れたのは、仕事がきっかけ。全く知らない土地だし、2度訪れることはないかなって思っていたんです。

だけど、上本町のサンロードを歩いた時、何か不思議な感覚になって、すごく懐かしいような空気を感じたんです。今までいろんな場所を訪れたけど、こんな感覚は名張が初めて。

それ以来、用事が無くても、定期的に名張を訪れるように。地元の人たちと関わらううちに、どんどん知り合いが増えていって。「また名張に来てんの？」って声を掛けられるほど、東京から通い詰めていたしな。気がつけば名張にどっぷり！リモートワークや、住むところの調整ができた2年前に名張に移住し、東京との2拠点生活を始めました。

名張が江戸川乱歩の生誕地であるこ

とを知ったのはこっちに来てから。だんだん乱歩のことを知りたくなってきて、詳しい人に話を聞いたり、ゆかりの地である鳥羽市の江戸川乱歩邸や、東京豊島区にある旧江戸川乱歩邸を管理する立教大学の先生を訪れたり。乱歩がきっかけで市外にもつながりがたくさんできました。

それに、せっかくだから生誕地である名張を知ってもらいたいと思い、地域の人と一緒にイベントなどの開催も。昨年10月21日には、やなせ宿で乱歩の誕生会を開いたんですよ。子どもたちが童謡を歌ったり、まち歩きをしたり。埼玉から参加した人もいて、今でも乱歩が愛されているんだなって実感しましたね。

来年は江戸川乱歩生誕130年。市民の皆さんとまちを盛り上げるイベントができたらいいなって思っています。



近畿大学工業高等専門学校 ロボット技術部 5年生

田中 健太 さん 仲谷 忠洋 さん 坂東 新太 さん
(写真左) (写真中央) (写真右)

Profile



昨年11月開催の「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023」で、17年ぶりの全国大会出場を決めたチームのメンバー。キリン型のロボット「moggy」で、障害物乗り越えてフルーツを収穫するミッションに挑み、特別賞を獲得した。



東京から名張へ移住

福地 康弘 さん

Profile

令和3年に名張へ移住し、東京と2拠点生活を送っている。「能を考える会」や地域おこしの会合にも参加。最近では、名張で知り合った人から畑を借りてオリーブを育てている。人とのつながりを大切にしながら、名張での生活を満喫している。





立ち止まってられへん

「怒りながら過ごす1日」と「笑いながら過ごす1日」。同じ1日を過ごすなら、絶対笑ってる方がいいでしょ？笑顔でいると、自分も周りの人も皆がハッピーになれる！笑顔に勝るものはないって思うから、いつも私は笑顔なんです。

人生は一度きり。時間は限られているから、楽しまないと損。だから自分がやりたいと思ったことは、全部やってやるって思っています。

コロナ禍で仕事が無くなったときは、今がチャンスと、介護施設の掃除やポスティング、子ども食堂でのボランティア活動などに挑戦。今まで経験していないことやたくさんの人に出会うことで、自分の人生がより豊かになるんですよね。人生を満喫してるなあって気持ちになるんです。だから知らないことはどんどん知りたいし、経験したい！

人の役にも立ちたいと1年前から「子ども支援募金マルシェ」を開催しています。コロナ禍のボランティア活動で子ども食堂などを訪れたことがきっかけでした。私が経営するフィットネス・ダンススタジオを使い、子どもの支援や皆が集まれる居場所を作りたいなって。月に1回開催し、多世代の人が、音楽ライブやパフォーマンスをする発表の場にもなっているんです。

歌謡曲でダンスしたり、笑いエクササイズをしたりと介護予防や認知症予防にも取り組んでいて。皆の心と体が元気になって毎日楽しく過ごせるきっかけづくりにも力を入れています。

「いつも笑顔でいときなあ」。私が最も尊敬する母がいつも言っていました。だから私は笑顔でいることを一番大切にしています。人生これから。さあ、次は何をして楽しもうかな。



フィットネスインストラクター
すやま
陶山 美佐 さん

Profile

西田原にある「名張スタジオ村」でフィットネスインストラクターとして活動中。名張地区まちづくり協議会の「**なばり**ひやわん倶楽部」のメンバーでもあり、誰もが楽しみながら体操ができる「ひやわんダンス」を考案するなど、マルチに活動している。



新春特別企画 2024

ナバリストの

夢

Special Interview

わいの1番の願い

みんな、わいのこと知ってる？あれっこわい犬の「ひやわん」いいます。

名張で生まれたもんやさかい、顔は、切れ長の目が特徴の能面テイスト、首輪は組み紐とかたやきなど、名張の要素がてんこもりなんですわ。

日本全国の人に名張のええところを知ってもらいたいなあと思って、イベントやら祭やらに出向いたりもしてんねん。これからもどんどんいろんなところに行って名張を自慢するわな！

わいのことを応援してくれる人もぎょうさんいて、名張のパン屋さんとか和菓子屋さんが、わいをかたどった食べ物を作ってくれたりしてんねんで。ほんまおおきにな。

それに、わいの活動に協力してくれている仲間が集まって「**なばり**ひやわん倶楽部」いうのをしてくれてんねん。わいのグッズを考えてくれたり、この上の記

事に載ってるサヤマちゃんが「ひやわんダンス」っちゅう、かっこええダンスも作ってくれたんやで。子どももできるダンスやさけ、みんな踊ってみてな。実は今、新しい歌も作ってくれてることで、ナウいダンスを考えてくれるようやから、楽しみにしといてや〜。

わいは、子どもが大好きなんやけど、うっすら細い目をしてるからか、たまに「こわい…」と言われることも…。でも、世界中の子どもたちが笑顔でいることがわいの1番の願いやねん。ひやわいから、いつもみんなのこと見守ってんで！

将来、「名張のヒーロー」とか言われるようになったら嬉しいなあ思て、お巡りさんと一緒に交通安全啓発やらもしてます。かっこええやろ？ほんで、お嫁さんも見つかったらもう言うことないねんけどなあ…。



シングルファザー犬

ひやわん さん

(**なばり**ひやわん倶楽部のメンバーと)



ひやわん HP

Profile

1333年7月8日生まれで、娘と暮らしている。名張を愛する心を持った人だけが見られる伝説の犬。見た人は必ず「あれっこわい！」(名張弁で「うわっ、すごい!」)と言ってしまう。ナバぶら(名張のまちをぶらぶらすること)が趣味。現在、婚活中

